

ずいぶん前のことですが、私はローマに住んでいたことがあります。待降節になると街のイルミネーションがとてもきれいになりますが、教会でももう一つ大切な準備が始まります。それは馬小屋(プレセピオ)の準備です。

ローマには、有名な古い教会だけでも七百以上あります。どの教会にも、それぞれ工夫された、とても美しい馬小屋が飾られます。私は、その馬小屋を見て回るのが大好きでした。

ある日、とある教会に入りました。入口の左側に大きなガラス戸があり、その向こうに、とても大きな馬小屋が展示されていました。説明を見ると、なんと 17 世紀につくられたものだと書かれていました。

でもその「馬小屋」は、ただの馬小屋ではありませんでした。小さな町が丸ごと再現されていて、その町の一軒の家の中に、聖家族の馬小屋が置かれていたのです。よく眺めてみると、その町並みは見覚えのある風景でした。

— そう、それはローマの町並みだったのです。

「自分たちの町に、イエス様が来てくださる」——喜び迎える昔の人たちの気持ちが、とてもよく伝わってきました。神様が、私たちのところに来てくださる。まさに待降節の心です。

では、待降節と降誕節にはどんな意味があるのでしょうか。教会は、この期間を通して「イエス様が来られるとはどういうことか」を深く味わうように招いています。イエス様が来られることには、三つの意味があります。

第一に、2000 年前、イエス様はベツレヘムで誕生されました。これは歴史の中で起こった事実です。

第二に、イエス様は、世の終わりに再び来られます。福音書にもこうあります。「人の子は、栄光を帶びて来る」(マルコ 13・26)

そして第三に、イエス様は、今日も、私たちの日々の生活の中に来てくださいます。祈る時、困っている時、誰かを助ける時、ふと心に触れてくださることがあります。

今日の福音では、洗礼者ヨハネが「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」(マタイ 3・3)と呼びかけます。

イエス様が来られる“道”を整えるということです。

三つ目の意味、つまり「イエス様が私たちの生活の中に来てくださる」ということを考えると、この言葉はとても大切です。

それは、イエス様と私たちが一緒に歩む道を整える、という意味になるからです。どうすれば、イエス様と共に歩む道を整えることができるのでしょうか。それは、イエス様ご自身にお尋ねし、導いていただくのが一番です。祈りのうちにイエス様にお尋ねしましょう。

今日はこの後、待降節の黙想会があります。この時間を通して、イエス様と共に歩む道を、イエス様が喜んでくださる形で少し整えることができますように。

そう願いつつ、このミサを続けてまいりましょう。